

昭和 27 年 (1952)	5 月	社団法人の組織をとる.	1918 (大 7)	日本数学物理学会	439	7
昭和 29 年 (1954)	7 月	数学辞典を岩波書店から刊 行した.	1921 (大 10)		529	13
昭和 30 年 (1955)	7 月	双書 Publications of the Mathematical Society of Japan を創刊.	1931 (昭 6)		1041	41
	9 月	代数的整数論に関する国際シンポジウムが東京 および日光にて開催された.	1941 (昭 16)		1816	153
	12 月	上記シンポジウムのため Journal Vol. 7, Supplement を特集した.	1945 (昭 20)		2580	9
昭和 31 年 (1956)	5 月	'数学' 第 7 巻第 4 号を上記 シンポジウムの特集号とした.	1946 (昭 21)	日本数学会	751	149**
		(福富節男記)	1947 (昭 22)		1240	237
		会員数および講演数の変遷	1948 (昭 22)		1414	325
			1949 (昭 24)		1400	405
			1950 (昭 25)		1193	481
			1951 (昭 26)		1132	520
			1952 (昭 27)		1121	587
			1953 (昭 28)		1210	552
			1954 (昭 29)		1365	465
			1955 (昭 30)		1412	543
1877 (明 10)	東京数学会社	55	1956 (昭 31)		1516	484
1881 (明 14)		59	1957 (昭 32)		1566	472
1884 (明 17)	東京数学物理学会	82				
1891 (明 24)		94				
1901 (明 34)		175				
1911 (明 44)		341				

* 以下 1945 年までは日本数学物理学会の常会、
年会における講演中数学に関するものの数。
** 以下日本数学会の春秋の大会における講演数の
合計。

東京数学会社雑誌題言

此般数学会社ヲ開立スルノ目的ハ益々斯学ヲシテ開進セシメンコトヲ欲スルニ在リ此学ヲ開進セシメンコトヲ欲スルノ目的ハ実理ヲシテ大ニ人間ニ明ナラシムルニ在リ蓋シ数ハ理ノ証ナリ証明ナラザレハ理顯レズ苟理ノ顯レンコトヲ求メハ数ソレ講明セザル可ケンヤ我邦数学ヲ講スル者古来其人ニ乏シカラズ近世西学開クルニ及テ数学モ亦大ニ進ミ二三傑出ノ名家アリテ出テ東西ノ美ヲ併セ大ニ斯学ノ面目ヲ一新セリト云願フニ昔時武治ノ世士人ト稱スル者専ラ体力ヲ重ンジ智力ヲ重ンセズ儒者仏者皆空理ヲ務メテ実用ヲ務メズ算数ノ事ニ至テハ之ヲ卑シムコト特ニ甚シク視テ以テ商売ノ事トシ之ヲ度外ニ措クニ至レリ方今其風漸ク除ケリト雖モ余習未ダ尽ク去ラス常人ハ論ナキノミ文武ノ職ニ居リ教導ノ任ニ當リ号シテ君子學士ト稱スル者ト雖モ往々数学ヲ講セス唯ニ講セサルノミナラス講セザルヲ以テ辱トナササルニ至ル是數明ナラザレバ理顯レザルコトヲ知ラザルヲ以テナリ然ラハ則チ斯学ノ面目ヲ一新セリト云フ者モ唯其専門有志輩ノ間ニ止マリテ其効未ダ公衆一般ノ実益ヲ為スニ及バズト云フベシ是此会ヲ設ケタル所以ナリ本会既ニ公衆一般数学ノ開進ヲ以テ目的トス乃亦此目的ヲ達スベキ方略ヲ撰バザル可ラズ是ニ於テ会同初議略其端緒ヲ開キ要スルニ力ノ及ブ所ヲ尽サンコトヲ欲スルニ在リ其目曰ク内外古今数学關係ノ書籍ヲ蒐輯スルナリ曰ク各人ノ質問ヲ受ケバ必ズ之ガ答ヲ為ス可キ也曰ク会中不審ノ件ハ弘ク公衆ニ質問ス可キナリ曰ク西洋数学書ヲ翻譯ス可キナリ曰ク既ニ翻譯セル者ハ之ヲ印行ス可キナリ曰ク諸名義訳例等ヲ一定ス可キナリ曰ク毎會議定スル所ハ輯録シテ印行ス可キナリ此等其大略ニシテ細目ノ如キニ至リテハ逐會議定スル所アラントス今議事輯録第一号稿成ル題シテ東京数学会社雑誌ト云フ將ニ割剴ニ附セントス依テ聊立会ノ本志ヲ述ルコトカクノ如シ

明治十年十月

神田孝平識